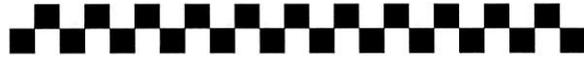


青年技術士懇談会



Vol.3

第23A期(2004年6月~2005年5月)

2005年6月

社団法人日本技術士会 調査委員会 青年技術士懇談会

目 次

- ◇ 巻 頭 言 p 1
- ◇ 寄 稿 p 3
- ◇ 月例会活動報告 p 6
- ◇ 委員・委員補佐、並び活動グループの紹介 . . . p 15
- ◇ 修習技術者エッセイ p 25
- ◇ 委員・委員補佐の自己紹介 p 28

平成16年度の青年技術士懇談会年鑑（V o 1 . 3）のご案内

青年技術士懇談会委員長 野村 貢

1. 発行目的と年鑑の活用

年鑑は、1年間の青年技術士懇談会の活動記録として取りまとめているものです。青年技術士懇談会の活動は近年、支部交流、国際交流、シンポジウム開催など多岐にわたっております。また、活動基盤である委員、委員補佐の人数も年々多くなり、今年度は委員16名、委員補佐20名の大所帯となりました。年鑑はこれらの記録として、また技術士会および外部への活動紹介として取りまとめています。記録としての年鑑の発行目的は、次の通りです。

- (1)日本技術士会・各分会・支部・委員会・会員に青年技術士懇談会の理解を促す。
- (2)日本技術士会事業における関係部署との共同企画（講演会・見学会・CPD活動等）等を企画する際の資料として用いる。
- (3)日本技術士会の中での若手技術士、修習技術者の活動を対外的に紹介する。

年鑑が活用され、各種の取組みが実現できれば望外の喜びです。また、本内容はHPにも掲載していますので、参照して頂ければ幸いです。

なお、調査委員会としての青年技術士懇談会は平成17年6月で活動を完了することとなり、本年鑑は調査委員会青年技術士懇談会としての最後の活動報告となります。

2. 青年技術士懇談会のご紹介

調査委員会青年技術士懇談会は、全国7支部の45才未満の技術士、約2,500名の部門を越えた（若手）技術士で構成される会です。

若手の会員・準会員を対象とした相互研鑽や継続的なCPD教育の場を鋭意提供、並びに日本技術士会の事業（例会活動、支部交流活動、特別シンポジウム活動、国際交流活動、修習者の支援技術者活動／会員増加・指導技術士の紹介、技術士会の広報、試験業務協力、若年技術者の組織検討等）に積極的に貢献しています。

青年技術士懇談会のスローガンは、”開かれた、会員のための、サービス活動”で関係部署・委員会と連携して活動しており、この方向性は平成17年6月の実行委員会移行後も継承されていきます。

(1) 平成16年度の実施体制

対外的な活動グループは7グループ、会計・出席管理・規約改訂等の内務グループは3グループの合計10グループで構成しています。スタッフは委員16名、修習技術者の委員補佐20名の合計36名です。

(2) 主なグループの活動報告

国際交流、広報活動、月例会、特別シンポジウム、支部交流、修習技術者支援、試験業務協力、出版・企画、組織・規約検討、会計の各グループで活動致しました。ただし、特別シンポジウムの今年度開催は見送りとなりました。

3. 年鑑内容のご紹介

(1) 月例会活動報告

原則として毎月実施している月例会の活動報告です。年間活動の記録として、年鑑の基

本部分を成しています。活動記録の執筆は、それぞれの月例会の実行幹事が担当しています。

(2) 活動グループの紹介・活動報告

活動グループの紹介は、委員、委員補佐の紹介および活動グループの活動とメンバーについて紹介しています。

活動報告は、グループごとの活動と成果、今後予定などについて、グループ担当が記述しています。

(3) 修習技術者エッセイ

青年技術士懇談会の主役である修習技術者の委員補佐3名が、年鑑に寄せてエッセイを執筆しています。

(4) 委員・委員補佐紹介

本年度の委員、委員補佐の自己紹介です。

4. 今後の活動

青年技術士懇談会は、6月で23期45年間に及んだ活動に幕を下ろします。これは、技術士法の改正に伴う若手技術士の増加が現実のものとなりつつある中で、調査委員会としての活動領域が実態としての青年技術士懇談会の活動領域にそぐわなくなった、言い換えれば青年技術士懇談会が脱皮を図る時が来たということであると思います。

6月からは青年技術士交流実行委員会（Young Engineers Forum）として政策委員会のもとで改組し、新たな活動を始めることとなります。新たな委員会の活動は次のように予定されています。

(1) 政策委員会の企画・立案への若手技術士の参画、意見反映機会の創出

(2) 若手技術士の自主的活動の支援

(3) 支部交流の促進

(4) 若手技術士の国際交流の促進、支援

これらの活動予定は順次具体化し、ホームページや各種広報物により内外に報告していきます。

このような中であって青年技術士懇談会のあり方について皆様にご理解頂き、今後も技術士会各方面、賛助会員各企業、青技懇OB、青技懇会員からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。

たくさんの経験を経て今がある。その大きなアルバム「青技懇」 第20期青技懇委員長 石井 聡

このたび青技懇が実行委員会として、新たなスタートをきったことに対しまして、まずはお祝いを申し上げます。新試験制度により今後、若手技術士が増大するだろうこととも関連して、青技懇の役割はますます大きくなっていくことと思います。

私が技術士に合格したころは、「青技懇で10年以上遊べるな」と思っていたのですが、光陰矢のごとしの言葉どおり、気がつけば会員規定の45歳が間近になっていました。

私の今があることは、技術士試験に合格し、青技懇を通じてたくさんの人にお会いし、たくさんの経験をしたことにより成り立っているのだ、と常々思っています。またそれらが元となり、普通では経験できないようなフィールドでプレイできるようになったことは、自らも驚異だとも感じます。

「技術士会の会合で得られるものは計り知れない」とはよく聞く話でもあります。青技懇は若手・現役・優秀な会員たちにより成り立っていますので、まさしく珠玉の異業種交流といえるでしょう。

私も合格した当時、期待と不安と戸惑いとともに、例会に参加したことが思いおこされます。ところが、「この人たちは技術屋という水流の上澄みなのだ」ということを確信するには、それほど時間は必要ありませんでした。さらに自ら参加することで、それは言葉どおりの「切磋琢磨」でした。

その後、会員の中でも未だ中堅でしたが第20期の代表幹事を拝命し、微力ながら青技懇への恩返しをさせていただきました。しかし微力ゆえの至らぬ点など、会員の方々に満足な貢献ができなかったのではと、いまでも悔やまれることもあります（これもひとつの大きな経験だったといえる）。

「2002年修習技術者 세미나」の講師を拝命したとき、『Conclusion：いままでの経験のすべてがあって、今がある。あなたも・わたしも。そしてこれからも』つづいて『すべての道、つまり経験はローマに通ず…』さらには『全てが糸（意図）のように繋がっていた』と述べさせていただきました。これは「青技懇」での自ら得た体験から、まさしくにじみ出る言葉でした。

青年技術士懇談会での体験は、自らの技術者としての意識を形成してきた鮮やかな天然色アルバムだといえるでしょう。ここまで断言できるほど、青技懇は煌く星のような、ユニークな組織だと言えます。そのような素晴らしい会が継続して発展されることを祈念いたしております。

石井 聡（技術士：電気・電子部門）

青技懇の意義を考える

第21期青技懇委員長 北尾 由之

1. はじめに

私が技術士に合格したのが37歳の時ですから、青技懇には8年程お世話になりました。その最後の3年間、若干の恩返しのため幹事を務めさせて頂きました。ここでは、私が青技懇の活動を通して得た経験を元に、青技懇の意義について私なりの考えを述べたいと思います。

2. 青技懇の本質

青技懇が技術士会の他の組織と比べて特長的なのは、資格年齢（現在は45歳未満）と、部門横断の組織であるということでしょう。このおかげで、他の組織には出来ない重要な役割を担ってこることが出来ましたし、これからも担って行くことになると思います。例えば、会員が若いということから修習技術者支援や試験業務支援が可能ですし、部門横断の組織であることから例会活動などでも独自色を打出すことが可能です。これらの活動は、青技懇が調査委員会であるとか実行委員会であるとかの形態ではなく、本質的に技術士会の中でなくてはならない存在であるし、今後もあり続けることを意味しています。

3. 青技懇は大人の組織

ところで、青技懇は大人の組織でもあります。1つには、幹事が1年交代で交代して残った幹事が新任の幹事にノウハウを伝えていることです。これなどは、青技懇がそれだけ重要な役割を担ってきたことの裏返しと言えると思います。2つ目は、規約が従来から存在していて、青技懇の役割、幹事の位置付けを明確にしていることです。これも、継続して重要な役割を担うためには重要なことです。3つ目は、規約の中で委員長が職務不能になった場合の規定が明記されている。つまり、リスク管理が出来ているということですね。

4. 青技懇の活動内容の変遷

私が委員長を務めた第21期でも、青技懇の活動内容は例会活動、修習技術者（技術士補）支援、試験業務支援、地方交流、広報、インターネット（ホームページ）、会計など多岐に渡っていました。

しかし、青技懇の活動内容は時代と共に変化してきました。例えば修習技術者（技術士補）支援は、従来の技術士補能力向上セミナー支援、第一次試験合格者歓迎会に加えて、20B期で新設した委員補佐開催の2月例会、修習技術者支援実行委員会との連携と、活動が拡大しています。

一方、試験業務支援は受験者数の増大と共に、必要な試験監督者数や受付業務者数が増大したために、従来の方法での募集が困難となったため、試験センターと見直しを行い、試験センター主導による募集方法を確立しました。これにより、過去、試験担当幹事の方が一週間は仕事にならなかったという話は伝説となるでしょう。

5. 青技懇の意義

私は、必要な変化が出来る組織こそ、安定した組織と考えています。青技懇は現在も、国際交流など新たな活動を展開しつつあります。このように必要な活動が展開できるということは、青技懇が真に必要とされている組織であり、また今後も安定して活動が可能な組織であると言えます。

今後も青技懇が発展を続けることを祈り、声援を送りたいと思います。

北尾由之（技術士：情報工学部門）

青年技術士懇談会から青年技術士交流会へ

第22期青年技術士懇談会委員長 時合 健生

1. はじめに

私が、青年技術士懇談会（略称：青技懇）の活動に初めて参加したのは35才、技術士に合格してから2年が経過していました。参加のきっかけは、大抵の人と同じだと思いますが、若くて同年代の人がいて、面白そうだなということでした。その後、スタッフ（＝委員）に関心を示したのは、5才（当時38才）になる長女が、小児がんで幼くして亡くなり、「やりたい事ややりたくない事も含めて人生そのものを味わえることができなかつた」その死に様をみて、仕事や家庭以外でも娘になり代わって「何か世の中に役立つ喜ばれること」に携ってみたいと強く思ったからです。

きっかけはさておき、青技懇活動を通じて得られた貴重な体験を紹介します。具体的には、

- (1) 同じ志や方向性を共有する友人が持てた事
- (2) 同時に視野が広がり仕事にも活用できた事
- (3) ある目的集団の運営ノウハウを体得できた事
①ビジョンを持ち発信し、後姿で浸透させる事や、②思いの異なるメンバーのベクトル合わせが出来た成功体験等

枚挙がありません。例えて言えば、人情味の薄い東京というコンクリートアイランドでの「他人も喜び自分も楽しめる」お祭り気分を満喫させて頂いたと思います。

2. 第22期の活動（H15～16年）

当時、青技懇は調査委員会の一つとして位置づけられ、45才未満の会員（技術士約～2,500名）で構成されていました。委員は15名前後、委員補佐（主に技術士補）は15名前後で、「開かれた～Open、会員のための～Useful、サービス活動～Service」というスローガンで活動を展開してきました。主な活動は、下記の通りです。〔（ ）内は関連機関・委員会等〕

- (1) 技術士補を含む若手技術者の国際交流活動（インドネシア・中国等）→ 現時点では韓国も対象
- (2) HPやメールシステムを活用した技術士会の広報活動（事務局）→ 往復葉書を廃止しHP充実
- (3) 支部との交流活動 → 定期的な総会を開催
- (4) 月例会（講演会や研修会並びに見学会）の開催
- (5) 特別公開シンポジウムの開催 → ①江崎玲於奈博士を招待したシンポジウム（H15）、②坂村健教授を招待したシンポジウム（H16）
- (6) 修習技術者支援活動の実施（修習実行委員会）→ 修習技術者セミナー・ガイダンスの実施
- (7) 技術士会の試験業務への協力（試験センター）→ 1次・2次試験監督及び受験願書の審査業務
- (8) 会誌作成及び書籍出版活動 → 会誌作成と配布
- (9) 若手技術者の活動組織の検討（政策委員会）→ 実態に応じ規約改正／青年技術士交流会の検討

現時点でも各種活動は、若手も含めた会員のニーズに対応し、継続発展し深化している事感慨深く思っています。

3. 今後の青技懇の活動について

従来青技懇は、調査委員会に属していましたが、実質的には、2,000名以上を越える会員を要する建設部門に次ぐ隠れ部会としてのパフォーマンスを全国規模で実施しています。しかしながら、これからは政策委員会のもと、常設の実行委員会である「青年技術士交流会」になります。従って今以上に、「開かれた～Open、会員のための～Useful、サービス活動～Service」が求められます。既存の40才以上の会員はもとより、新たに増加する20才台の修習技術者・30才台の若手技術士のニーズに対応し、国際的に通用する日本の技術者団体の尖兵となるべく、幅広く活動して頂くことを祈念致します。

時合 健生（技術士：化学部門）

月例会活動報告

月例会のテーマと出席者数

<2004年6月～2005年5月>

年 月	出席者数	テーマ
2004年6月	43名	青年技術士懇談会総会
2004年7月		技術士に足りないもの？
2004年8月	26名	ビアパーティー
2004年9月		中止
2004年10月	9名	講演会「これから必要とされるエンジニアとは？ ノウハウを残す上での心得！」
2004年11月	14名	修習技術者研修セミナー
2004年12月	15名	中間報告会、忘年会
2005年1月	14名	講演会 「技術者が知っていなくてはならない法律」
2005年2月	8名	「日本科学未来館」見学会
2005年3月	一般48名 合計69名	修習技術者例会「修習技術者の間に得ようとするもの」 講演会、青技懇活動報告、グループディスカッション、懇親会
2005年4月	27名	「宇宙航空研究開発機構」見学会
2005年5月		中止

*各月例会の議事録を次項以降に紹介します。

青年技術士懇談会 月例会活動報告

6月例会

- テーマ：「青年技術士懇談会総会」
 - 日時：2004年6月26日（土）15：00～17：00
 - 場所：（社）日本技術士会葺手ビル会議室
 - 参加者：43名
 - 内 容
- (1) 平成15年度（第22B期）活動報告
 - 1) 技術士補を含む若手技術者の国際交流活動（インドネシア・中国等）
 - 2) HPやメールシステムを活用した技術士会の広報活動（事務局）
 - 3) 支部との交流活動（各支部）
 - 4) 月例会（講演会、研修会、見学会）の開催
 - 5) 特別公開シンポジウムの開催（情報工学部会・事務局）
 - 6) 修習技術者支援活動の実施（修習技術者支援活動実行委員会）
 - 7) 技術士会の試験業務に協力（試験センター）
 - 8) 会誌の作成及び書籍出版活動
 - (2) 23A期委員および委員補佐の選任
 - 1) 新任委員（ ）は推薦部門
青木ゆかり（情報工学）、井上 譲（建設/委員補佐からの異動）、清田 隆（建設）、黒崎靖介（環境）、黒澤 之（建設）、中村 弘（水産）、前田秀一（化学）
 - 2) 退任委員
時合健生（化学）、桜井裕一（建設）、笠井 睦（環境）、秋好 忍（機械）、
 - 3) 新任委員補佐（ ）は所属部会
阿部真丈（金属）、高木圭子（環境）、高田準三（衛生工学）、橋本正明（環境）、伊藤紀夫（機械）、鎌田憲司（化学）、今野 明（電気電子）
 - 4) 退任委員補佐
近江麻衣子（環境）、佐々木政幸（建設）
 - (3) 執行部の選出
委員長：野村 貢（建設） 副委員長：小松秀次（建設）、佐藤嘉憲（応用理学）、久保康弘（生物工学） 会計：黒崎靖介（環境）
 - (4) 予算案の承認
笠井委員より23A期予算が提出され、拍手により承認された。
 - (5) WGメンバーの選出
WGメンバーを互選により選出した（メンバー構成は活動報告書参照）。

（野村 貢 記）

7月例会

(活動記録なし)

8月例会

平成16年8月8日(日)18時30分～20時30分
場所：新宿「HUB」、出席者：26名

テーマ：「ビアパーティー」

毎年恒例のビアパーティー。毎年、技術士2次試験の最終日に試験監督や受験者の慰労と若手技術者の情報交換を兼ねて開催している。

参加者は青技懇委員を始め、元気な若手修習技術者まで9部門に跨る幅広い交流会になった。平時からモチベーションの高い面々だが、おいしいビールが議論に油を注ぎ、今回も盛大な会になった。

(小松 秀次 記)

10月例会

平成16年10月29日(日)18時30分～20時30分
場所：葺手第二ビル、出席者：9名

テーマ：講演会「これから必要とされるエンジニアとは？ノウハウを残す上での心得！」
日刊工業新聞 編集記者 今堀宗弘氏

新進気鋭の編集員の話は、技術屋と比較して視野が広く、物事を全体に捉えている印象を受けた。非常にためになった講演と思う。ただ参加人数が少なかったのが残念であった

(中村 弘 記)

11月例会

第17回修習技術者研修セミナーの報告

- 1 日時：11月27日（土）～28日（日）に標記セミナーを開催しましたので報告します。
- 2 場所：リフレフォーラム
- 3 一般参加者：14名
- 4 青技懇側スタッフ：
野村委員長、佐藤副委員長、清田、青木、黒崎、前田、黒澤の各委員が参加
OBの場合、桜井の両氏がパネリストとして参加
懇親会には高木委員補佐が参加
- 4 内容
○修習委員会の狙いとしては若年層中心のセミナーを想定していたが、実際には50代の方が数名おり、昨年同様幅広い年齢の参加者となった。
○講演では機械部門、大野氏の講演が好評であり、参加者からの質問も大部分が大野氏あてとなった。
（この対応でパネルディスカッションの時間がなくなるというハプニングも起きた）
○プログラムは講演とグループ討議以外に新たに開発した実習を織り交ぜた。
- 5 反省
○青技懇委員補佐の受講がなかったことは残念。例年の進行とは違ったものを意識していたこともあり、委員補佐には研修運営のノウハウを学んで欲しかった。
○スタッフ及び講師のやりくりで苦慮した。
○時間通りの進行ができず、参加スタッフの十分な活躍機会も失ってしまった。
○運営スタッフが固定化されている。後に承継させるためにも多くの委員・委員補佐の参加が求められる。
以上、一部の方から指摘を受けたものの、一応の成果があったものと考えている。
- 6 その他
○二日間のセミナーは参加者・スタッフ双方に相当な負担がかかるため、見直しの可能性がある。

運営にご尽力いただいた青技懇メンバーに感謝する。

（黒澤 之 記）

12月例会

- テーマ：「青年技術士懇談会中間報告会」
 - 日時：2004年12月18日（土）15：00～17：00
 - 場所：(株)建設技術研究所 大会議室
 - 参加者：15名
 - 内 容
- (1) 平成16年度（第23A期）活動中間報告
 - 1) 支部交流 WG
全国大会での青年技術士分科会の成功を報告した。
 - 2) 公開シンポジウム WG
第3回シンポジウム企画書を説明した。（シンポジウムは中止）
 - 3) 広報 WG
HP更新、MLサーバーの更新を報告。HP更新と追加機能のためHPビルダー購入を報告。
 - 4) 出版企画 WG
年鑑の作成方針について報告。
 - 5) 修習技術者活動 WG
第17回修習技術者研修セミナー（11/27～11/28）について報告。
修習技術者例会について、担当者の役割分担について報告。
 - 6) 国際交流 WG
日韓技術士会議の参加報告。
例会時期に3名をCAFEOに派遣中。
 - 7) 月例会支援 WG
例会マニュアル（案）、例会タイムスケジュールについて、報告。
 - (2) 忘年会
中間報告会を終えて、恒例の忘年会を開催した。

（野村 貢 記）

1月例会

テーマ：技術者が知ってはいなくてはならない法律

—法律と倫理 内部告発について—

日時：2005年1月28日（金）

場所：日本技術士会第二荻手ビル5階会議室

内容（議事録）：

1月の例会は「技術者が知ってはいなくてはならない法律—法律と倫理 内部告発—」と題し、東京南部法律事務所の弁護士 堀 浩介先生に講演を戴いた。

まず、法律と倫理について、講演があり、法律的な規範が必ずしも倫理を含むことがあるわけではなくその逆の倫理が法律を含むのではなく、ある部分が共通になっているだけで、存在する。そのため、法律遵守だけでは、解決されない。倫理がもともと道德であるのでこのような事が生ずる。そういう中で企業倫理の明確な行動指針が必要となってきた。そのため、日本経団連の「企業行動憲章」および「企業行動憲章実行の手引き」（2004年5月18日）が公表された。このような背景で、企業の社会的責任（CSR）がクローズアップされている講演があった。内部告発に関して、「公益通報者保護法」（2004年6月18日）に成立した。これについて、通報の種類が3種類ありその手順をふまなければ保護されないため、安易に告発できる状況になったとは言いがたい。この法律自身が消費者保護法の延長線上で成立している事について話された。従来 of 告発者の保護に関しては、既存の法律を適応することにより保護していかなければならない状態から、正規な手続きをしておれば、この法律による保護しやすいようになったことを話された。

ただ、この法律には、手順の遵守が必ず出来る状態の会社であるかは、今後の会社内部の整備が必要となる。

企業と労働者の間に発生する権利・義務の他に企業と社会（消費者）に関する権利・義務関係だけでなく、労働者と社会（消費者）に関する、複雑な構造となっているのが内部告発である。

この、法的構造論に関して権利・義務関係の他に権利の濫用についても解説された。普段、法律に関して、感心が薄い技術士にとっては、新鮮な話があった。青年技術者が、将来上級管理職になったとき必ず必要となってくる知識ばかりではなく、これからの技術者として知っていなければならない常識である事をわやすく講演された。

最後に、質疑応答の時間で、疑問となる事案について、現状の見解指針について話された。特に労働関係の専門の弁護士ですので、事例が多く、有意義が例会であったと考える。

なかなか個別の質疑応答をして戴ける弁護士と出会う機会がないので、質疑応答も熱心な状態でした。

参加者14名、と通常例会に関しては、集まりが少なかったが、内容に関しては、知らない内容がわかっただけでも価値があったと思われるので、聴講者の知識の糧になれば幸いです。

（戸谷 次延 記）

2月例会

テーマ： ファミリー見学会 「日本科学未来館」

日時：平成17年2月19日（土）13：00～15：30

場所：〒135-0064 東京都江東区青海2丁目41番地

参加者：8名

内容（見学、議事録）：

「科学技術を楽しく学ぼう」というコンセプトのもとに、2月のお台場においてファミリー見学会を実施いたしました。当日はあいにくの雨天でしたが、そのおかげか土曜日にもかかわらず人手はそれほど多くなく、ストレスを感じることなく見学することができました。

参加者はまず未来館一階の会議室に集合し、その後予定時間まで各自自由に見学しました。

日本科学未来館は、4つの常設展示、「地球環境とフロンティア」、「技術革新と未来」、「情報科学技術と社会」、「生命の科学と人間」をメインに構成されています。私はそのうち「地球環境とフロンティア」に多くの時間をかけて見学しました。本当はロボットのいる「技術革新と未来」に惹かれたのですが、子供たちがたくさんいたため、今回は遠慮することに。

「地球環境とフロンティア」では、地球の中ではさまざまな物質や生物がたがいに影響を及ぼしながら、巨大なシステムをつくっているというガイア概念を前面に押し出し、人間たちがこのシステムの調和を乱したことで環境問題が始まったと紹介し、リサイクル素材の研究や、環境に配慮した新エネルギーシステム、省エネルギー技術をアピールしていました。その他、印象的だったのは小柴教授がノーベル賞を受けたニュートリノの研究に利用されたスーパーカミオカンデの模型です。スケールは1/10ですが、難しい素粒子の解説とともに満足できる展示でした。

参加者のほとんどは、ナノ技術のプロジェクトに関するラボラトリーツアーに参加されたようです。ここでは普段見られないような研究室内部の様子を見学することができます。今回の紹介された研究室では、カーボンナノテクノロジーの研究をされているらしく、ガイドの女性はその技術の豊かな将来性を誇らしげに語っていました。

比較的充実した時間を過ごせた分、少ない参加者数が残念でした。あまりにも参加者が少ないため、当初は中止の声もありました。当日参加の可能性もあったため、なんとか開催したものの、幹事を除くと最終的な参加者はわずか6名であり、幹事として集客力の無さを反省するとともに、今後例会の立案・宣伝方法を改善したほうが良いだろうと実感しました。

参加者（敬称略）：計8名

山田、園家、田村、高木、今野、原田、井上、清田

CPD：2ポイント

（清田 隆 記）



3月例会

平成17年3月19日（土）10時30分～20時

茸手第二ビル、出席者69名

テーマ：修習技術者例会

「修習技術者の間に得ようとするもの」として、新一次試験合格者を中心とした修習技術者を対象に講演会、グループディスカッション、懇親会を通して、参加者同士、参加者と委員、委員補佐との交流を図った。

修習技術者、技術士補、技術士、青技懇委員・補佐、それぞれの立場の人が互いの意見を交換する事により、参加者がこれからの自分がすべき事を見つけるきっかけにして頂けたかと思う。

また、本例会を企画・運営した委員補佐にとっても貴重な経験であり、委員補佐間の連携を強めることが出来た。

1. 講演会(10:30～12:30)

講師：泉氏（技術士）、新里氏（技術士）、井上氏（技術士）、園家氏（技術士補）

若手技術士、修習技術者を経験した新技術士、修習技術者と、それぞれの立場から、「修習技術者」をテーマに講演をいただいた。

2. 青技懇活動紹介(13:20～14:15)

発表者：清田氏（技術士）、山田氏（技術士補）

参加者に青技懇に興味を持ってもらい、今後の青技懇活動を活発化させることを目的とし、国際WGのCAFEO参加を中心に、青技懇の例会活動等を紹介した。

3. グループディスカッション(14:25～17:40)

参加者を6つのグループに別け、当日参加した技術士をコーディネータとして各グループに配し、3つのテーマからテーマを選択して、自由に話し合ってもらった。

コミュニケーションの難しさと重要性を感じてもらおうと共に、当日知り合った参加者同士の交流を深めようことを目的としている。

短い時間ながらも、各グループ共に成果発表までこなし、活発な意見交換が行われた。

4. 懇親会(18:00～20:00)

本例会のメインイベントとも言うべき懇親会には、岩熊修習委員会会長を始め、講師、青技懇委員など多くの技術士に合流して頂き、参加者との交流を行った。

普段技術士となかなか接する機会の少ない修習技術者にとっては、直接技術士と話が出来、有意義な時間だったと思う。

活気のある雰囲気の中、参加者と私たちの間でも新たなネットワークが生まれた。

(斎藤 稔 記)



4月例会

テーマ： 宇宙航空研究開発機構（JAXA）見学会&意見交換会

日時： 平成17年4月15日（金）13：00～17：00

場所： 東京都調布市 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

募集人数： 25名

対象： 技術士&士補

参加費： 1,000円

例会責任者： 木下（経営工学）、前田（化学）

内容（見学、議事録）：

4/15（金）に青年技術士懇談会主催での宇宙航空研究開発機構（JAXA）見学会&意見交換会を行いました。当日は天候にも恵まれ、都心から少し離れた調布の静かな環境の中で、日本の宇宙航空の最先端技術を学ぶことができました。遷音速実験設備、IT三次元可視化センター、飛行シミュレータ、および飛行機&ヘリの実機見学を行いました。特に、IT三次元可視化センターでは、スパコンによる高度な数値シミュレーション解析の進化のプロセス（デジタル開発による開発の早期化、コスト削減等の進展）が理解できました。

技術士&宇宙航空研究者との意見交換会では、技術士の紹介後JAXAより今後の日本の宇宙航空開発ビジョンの説明がなされ質疑応答に入りました。宇宙航空技術開発は、日米欧の厳しい国家間競争の中で行われており、今まではそれぞれの分野で蓄積してきた知識、技術、経験をひとつに集約し、基礎的な研究から開発・利用に至るまで一貫して行う体制に整えつつある説明がございました。国家予算から莫大な研究開発費が投入されていることも事実であり、技術士からは宇宙旅行の為の航空機開発もいいが、緊迫が増しているアジア情勢の中で防衛機器の開発も必要では、という辛辣なご意見もございました。JAXA内でも技術士の知名度は低く、今回の見学会&意見交換会で少し技術士の真摯な組織が理解されたのではないかと思います。100名近い応募者に対して、見学者受け入れ許容人数が25名ということで、多くの方にお断りすることになり、機会があればまた青年技術士懇談会で企画を検討したいと思っております。

【4月例会スケジュール】

13：00	航空宇宙技術研究センター 集合
13：00～13：20	概要説明（紹介ビデオ）第一会議室
13：20～13：50	風洞実験設備見学
14：00～14：20	IT三次元可視化センター見学
14：30～14：50	エンジン実験設備見学
14：50～15：10	分室へ
15：10～15：30	飛行シミュレータ見学
15：35～15：55	実験機見学（MUPAL：双発ターボプロップ機、MH2000A ヘリコプタ）
15：55～16：15	本社へ
16：20～17：00	意見交換会（フライト実証チームリーダー 他）

参加者実績： 計27名

CPD： 4ポイント

（木下 英也 記）

青年技術士懇談会委員・委員補佐・協力員並びに活動グループの紹介

1. 第22B・23A期の委員・委員補佐（技術士補）

技術士の委員と技術士補・修習技術者の委員補佐で委員会業務を分担しております。また、支部連携が必要な行事には、支部代表および支部委員との協働を行っています。

（担当者名は順不同）

【委員長・副委員長・委員】：16名

委員長：野村 貢（総合技術・建設）

副委員長：小松秀次（建設）、久保康弘（生物工学）、佐藤嘉憲（応用理学）

委員：木下英也（経営工学）、寺西由夫（情報）、戸谷次延（電気電子）、平野輝美（化学）、松浦勝博（総合技術・情報工学・電気電子）、青木ゆかり（総合技術・情報工学）、井上 讓（建設）、清田 隆（建設）、黒崎靖介（総合技術・環境・建設）、黒澤 之（総合技術・建設）、中村 弘（水産）、前田秀一（総合技術・化学）

【委員補佐；技術士補】：20名

山田英樹（建設）、益子理（環境）、原田篤史（生物工学）、佐藤大樹（環境）、園家研一郎（航空宇宙）、前田香奈（生物工学）、掛川昌俊（機械・衛生工学）、柳澤 剛（農業・応用理学）、斎藤 稔（機械）、田村裕美（建設）、前田正吾（環境）、新井靖典（建設）、佐々木るみゑ（生物工学）、阿部真丈（金属）、高木圭子（環境）、高田準三（衛生工学）、橋本正明（環境）、伊藤紀夫（機械）、鎌田憲司（化学・環境）、今野 明（電気電子）

2. スタッフの新委員の業務分担

当会は、各委員が月例会活動を担当する中で、下記委員会・グループに役割を分担し、会員も含め非会員を対象とした非会員向けの多様な活動を実施しています。

【主な対外活動グループ（○：責任者）】

・支部交流グループ兼支部連絡窓口

北海道、東北、北陸、中部、関西、中四国、九州の各支部青年技術士懇談会（名称は各支部による）との合同企画開催および支部間ネットワーク構築を担当しています。今年度は技術士全国大会（札幌）において全支部の参加による分科会に参加しました。

○小松 秀次、戸谷 次延、山田 英樹、掛川 昌俊、前田 正吾、
阿部 真丈、高木 圭子、高田 準三

・公開シンポジウム

恒例で5月開催している公開シンポジウムの企画、運営を担当します。第1回は江崎 玲於奈博士、第2回は坂村 健博士をお呼びし、講演とパネル討論を行いました。今年度は講演予定者都合により開催できませんでした。

○佐藤 嘉憲（担当副委員長）

・ 広 報

委員会業務の案内、活動紹介およびホームページ構築運営やメールニュース等の広報活動を行っています。

○井上 譲、平野 輝美、寺西 由夫、柳沢 剛、阿部 真丈、高木 圭子

・ 出版企画

委員会の活動報告（年鑑）や公開シンポジウム資料の編集・作成とともに、委員、委員補佐の出版企画支援を行います。

○前田 秀一、戸谷 次延、松浦 勝博、掛川 昌俊、橋本 正明

・ 修習技術者活動

修習技術者当事者および最も近い年代の技術士として、修習技術者のための技術士会サービスを模索し、提案します。また修習技術者のみで青年技術士懇談会の月例会を企画・運営するとともに、修習技術者支援実行委員会との協働によりセミナーやイベントを運営します。

○黒澤 之、佐藤 嘉憲、久保 康弘、青木 ゆかり、他委員補佐全員

・ 国際交流

昨年度に引き続き、海外の若手技術者とのネットワーク構築のため、APEC との若手技術者の交流活動を目的とした海外派遣を実施しました。また、日韓技術士会議において韓国青年技術士委員会と交流し、交流促進と日韓技術士会議での分科会設置について合意しました。国際特別委員会に委員派遣を行い、清田委員が参加しました。

○清田 隆、久保 康弘、山田 英樹、斎藤 稔、前田 香奈、伊藤 紀夫、
田村 裕美、佐々木るみゑ

・ 月例会支援

青年技術士懇談会の主要活動である月例会の充実を図るための企画提案、支援を行うグループとして今年度より発足しました。月例会担当幹事の月例会企画立案と広報を支援し、効果的な広報活動により参加者の増加を目指すとともに、例会内容の充実を図り、CPD 支援プログラムを構成します。

○木下 英也、小松 秀次、佐藤 嘉憲、久保 康弘、中村 弘、松浦 勝博

※ 昨年度まで活動していた【技術士試験業務支援グループ】は執行部の直接活動によるものとし、今年度のワーキング活動を終了しました。

【内務グループ】

- ・出席管理

月例会やシンポジウムの出席管理とCPDエビデンスのフォローアップを担当します。

○原田 篤史、佐藤 大樹

- ・会計管理

委員会業務の出納管理を行います。

○黒崎 靖介、野村 貢

- ・組織、規約

委員会運営のための規約管理と各種委員会への参加を行います。今年度は青年技術士懇談会の実行委員会への移行について政策委員会との調整を担当しました。

○野村 貢、小松 秀次、佐藤 嘉憲、久保 康弘

***各サブグループの活動報告は、次項以降のレポートを参照願います。**

青年技術士懇談会 活動報告

サブグループ名	支部交流グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○小松、戸谷、掛川、山田、前田（正）、阿部、高木、高田
グループの目的・活動の趣旨	北海道、東北、北陸、中部、関西、中・四国、九州の各地区の若手技術者との合同例会・合同特別企画開催並びに情報交換をスムーズ且つ活発に実施することを目的としたグループである。
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 持続的な支部交流への定着 支部交流会議を定期的（年1回）に開催し、情報交換を行う。 2. 合同企画の立案実施 若手技術士、修習技術者のスキルアップを目的とした本部・支部協賛の合同企画を立案し、実施する。 *上記の具体的な活動として「平成16年度全国大会」において北海道青年技術士協議会が企画する分科会を活用し全国的な支部交流活動の推進を図る。 3. 継続可能な支部交流手法の検討 日本全国の支部との直接交流には地理的な制約から旅費等の費用や時間が掛かるのが大きな障壁となっている。 個人や各支部の負担を軽減できなければ継続は難しい。全国大会での直接交流以外にHPやMLを活用し負担の少ない情報交換手法を検討する。 4. 他グループへの活動の展開 国際交流WGと連携し、海外の若手技術者との交流情報を各支部に発信すると共に参加を呼びかける。
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成16年度全国大会へ正式参加（h16. 9. 14～15） 平成16年度全国大会において北海道青年技術士協議会が企画する第5文化会に参加し、各支部の活動内容を紹介すると共に次回開催の九州大会へ向けて各支部の協力確認がなされた。 参加者：野村、佐藤（嘉）、久保、桜井、小松 2. 東北支部交流会議の実施（h16. 7. 23） 東北支部青年技術士懇談会が同支部調査研究会から専門部会へ移行したのを契機に当会と情報交換を行った。 参加者：小松 3. メールを活用した情報交換の実施 各支部の近況報告や行事等の情報を交換した。 4. 第35回日韓技術士会議（h17. 10）についての情報を発信、参加を呼びかけた。
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成17年度全国大会（九州大会）に参加 レポートの投稿や分科会にて発表予定。 2. 継続的な各会への情報発信 HPへの各WGの積極的な掲載による各会への情報開示 3. 第35回日韓技術士会議への参加調整等。
その他	今後、継続的に全国大会へ正式参加するには旅費等費用面の課題が残る。

サブグループ名	広報・インターネット関連グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	井上○, 平野, 寺西, 阿部, 高木, 柳沢
グループの目的・活動の趣旨	HPを通して会業務の案内, 活動事例紹介, メールニュース運用等の広報活動を行うことにより, 会員の交流を深めることを目的とする。
今期の活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットホームページ（青技懇サイト）の運営 ホームページの運営としては、各月の例会案内および参加申し込みフォームを作成し、このフォームに記入、送信することで、出席係および各月例会担当者へ例会参加確認メールが転送されるようにした。 また、青技懇への入会方法等の個人的な問い合わせにも柔軟に対応した。なお前年度までは問い合わせ先のメールアドレスを公開していたが、迷惑メールの受信や個人情報保護の観点から、アドレスを掲載しない方法で問い合わせができるように変更した。 2. 管理用メーリングリストの再構築および運営 青年技術士懇談会委員における連絡のためのメーリングリストに不具合があり、メールの送受信に問題があったため、メーリングリストを再構築し改善を図った。再構築後のメーリングリストを運用し、例会等の活動では連絡および意見収集等で効果的に利用できたと考えている。 3. ニューズリストの運営 HPからのML申込者を対象に青技懇の各種行事等の案内用としてのニューズリストのメールアドレスを日々更新し、各種の案内に効果的に利用することが出来た。 4. グループメンバーによるミーティング WG内の各業務担当グループ単位で必要に応じてミーティングを行った。WG全体ミーティングは今年度は時間的な余裕がなく、行うことが出来なかったことが反省点である。 5. 青技懇HPの英語版作成および公開 国際交流WGの活動とリンクして、世界へ青技懇をアピールする方法としてHPの英語版の作成および公開(暫定版)を平成17年4月末に行った。
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 青技懇サイトの定期的なアップデート実施（定期） タイムリーなサイト更新等を行うことが出来た。効果的な情報伝達の手法として有効と思われる。 2. 管理メーリングリストの運営 委員、委員補佐および協力員等における連絡手段として効果的に利用することができたと考えている。 3. ニューズリストの配信 近年ではインターネットを利用した情報提供は必須と思う効果的な情報提供の一つの手段として利用できたと考えている。 4. ミーティング 本年度活動初期におけるWG内の各業務単位で方針等討論において有効に活用した。
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 引き続き、インターネットにおけるサイト、メーリングリスト、ニューズリストの効果的な利用を図る予定である。 2. HPの英語版の完全版を公開できるようにHP再構築の予算関係も含めて今後も継続して執行部を含めた話し合いをする必要があり、管理がしやすく、効果的な利用法を検討することが肝要である。
その他	青技懇サイト修正、メーリングリスト、ニューズリスト等の業務負荷平滑化および継続性確保のため正副の担当者を割り充てたが、HP関係の業務については、全くの初心者にはきつい業務になってしまうことが懸念される。今後、新規に広報WGに参加する方が必ずしもHP関係に詳しい人とは限らないので、業務分担の際には考慮していかなければならない。また、必ずHP関係に強い人がWGに加わってもらう必要があると考えている。

サブグループ名	出版企画ワーキンググループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	前田○、戸谷、松浦、掛川、橋本
グループの目的・活動の趣旨	多彩な専門技術者集団である青年技術士懇談会の特徴を活かし、一般書籍の出版や専門雑誌への論文掲載などをおして、若手技術士から社会への科学技術普及活動を推進する。
今期の活動内容	<p>上記趣旨のもと、青年技術士懇談会委員及び協力員をワーキングメンバーとして、2002年12月に本ワーキンググループを発足した。本ワーキンググループの主な活動テーマを下記に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青年技術士懇談会活動年鑑制作 一昨年、昨年、に引き続き、1年間の活動内容及び成果をまとめた年鑑を制作し、2005年6月の総会時、会員及び関連組織に配布する。 2. 専門誌への連載 技術系の専門雑誌へ、青年技術士懇談会の会員が中心となって連載を行う企画を立案する。連載テーマとしては専門技術の解説だけではなく、若手技術者を中心に広くメッセージを発信できる内容とする。 3. 一般書籍の出版 青年技術士懇談会の特徴を活かし、幅広い読者層を対象とした、技術関連の啓蒙や若手技術者のためのキャリアアップなどをテーマとした書籍の出版を目指して、企画を進める。
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度は専門誌への連載、一般書籍の出版に関する活動を行うことはできなかった。 2. 青年技術士懇談会としての活動年鑑の制作に取り組むことができた。
今後の予定・展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門誌への連載を目標にした企画作成及び執筆体制の整備 2. 一般書籍出版を目標にした企画作成
その他	専門誌の連載や一般書籍出版については、青年技術士懇談会の多くの会員の皆様には是非協力いただきたい。

サブグループ名	国際交流グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○ 清田、山田、田村、斉藤、佐々木（る）、前田（香）、伊藤（紀）、久保
グループの目的・活動の趣旨	海外若手技術者と交流する場を持ち、知識・人脈を広げることを目的とする。相互交流を行うための企画・準備を行い、海外技術者との窓口を形成する
今期の活動内容	<p>●活動内容</p> <p>1. CAFEO-22 への参加 清田隆、山田英樹、斉藤稔の3名が2004年12月にミャンマー ヤンゴンで開催されたCAFEO-22に参加した。参加各国の若手技術者会議であるYEAFFEO(Young Engineers of The ASEAN Federation of Engineering Organization)に出席し、ASEAN諸国の若手技術者と交流を持つことが出来た。(資料参照)</p> <p>2. 海外情報の収集 YEAFFEOを通じて得たコネクションを用い、ASEAN以外の海外若手技術者との交流の場としてYEI Forumの情報を得た。(資料参照)</p> <p>3. 日韓技術士会議(米子)への参加 グループリーダーの清田隆が、2004年10月に米子で開催された日韓技術士会議に出席し、野村委員長とともに韓国若手技術者とミーティングを行った。今年度の日韓技術士会議より、若手同士の交流を分科会を設けて実施することに決定。</p> <p>4. マレーシア若手技術者との交流会 2005年3月に、日本土木学会の招待を受けて来日したマレーシアの若手技術者と交流会(温泉一泊旅行)を実施。他の青技懇メンバーも参加した。</p> <p>5. 報告会の実施 2005年3月例会(一次試験合格者歓迎会)において、2004年、2005年のCAFEO参加の様子を紹介した。</p> <p>6. 英語版HPのサポート これまでの国際WGの活動を英語で紹介したものを作成し、英語版HPに掲載した。</p>
活動成果	昨年に引き続きYEAFFEOに参加したことで、ASEAN各国の技術者協会及び参加者と継続的に交流する窓口を形成することができた。また、新たな若手技術者会議YEIの情報を得ることが出来た。さらに、YEAFFEOで交流したマレーシアの若手技術者団体が、別件で来日した機会を用い、青技懇メンバーとの交流会を企画して更なる友好を深めることができた。
今後の予定・展開	<p>今後の青技懇の体制変更により、展開は流動的ではあるが、技術士会の方針としてASEAN諸国との連携は重要課題であることから、今年度もCAFEO, YEAFFEOへの参加の可能性は十分考えられる。しかし、これまでのように派遣団として青技懇委員・委員補佐を対象とするのか、45歳未満の全会員を対照とするのかは検討の余地あり。</p> <p>日韓技術士会で若手向けの分科会を持つことが正式に決まった。(国際WGの分担は未定)</p> <p>YEIの幹事(香港)に対し、メールにて青技懇の参加表明は出しているがレスがない。また、YEIは4年に一度開催され、通常は掲示板の活用が期待されているが、現在のところ特に積極的な発言は無い。YEI自体2004年(上海)に発足したばかりであるため、本格的な活動は2008年(ブラジル)からの可能性もある。</p>
その他	技術者の国際交流活動は委員の興味の有無に関わらず、技術士会の推進課題である。国際WGの活動は国内メンバーと海外技術者とのパイプ役でもある。メンバー強化とともに、まず委員が積極的に交流会等に参加することを望む。

サブグループ名	例会支援グループ																																																																	
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○木下 英也、小松 秀次、佐藤 嘉憲、久保 康弘、中村 弘、松浦 勝博																																																																	
グループの目的・活動の趣旨	青年技術士懇談会の主要活動である月例会の充実を図るための企画提案、支援を行うグループとして2004年に発足した。月例会担当幹事の月例会企画立案と広報を支援し、効果的な広報活動により参加者の増加を目指すとともに、例会内容の充実を図り、CPD 支援プログラムを構成する。																																																																	
今期の活動内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>場所</th> <th>時間</th> <th>テーマ</th> <th>例会名</th> <th>コンセプト(趣旨)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'04.10.29</td> <td>葦手第二ビル</td> <td>18:30 ～ 20:30</td> <td>勉強会</td> <td>講演会 日刊工業新聞 編集記者 今堀 崇弘氏</td> <td>これから必須とされるエンジニアとは? ノウハウを残す上での心得!</td> </tr> <tr> <td>'04.11.27-28</td> <td>リフレフォーラム</td> <td>13:00 ～ 16:30</td> <td>研修 (1泊2日)</td> <td>修習技術者研修セミナー</td> <td>課題:業務遂行能力 テーマ:業務能力、基幹能力向上</td> </tr> <tr> <td>'04.12.18</td> <td>建設技術研究所</td> <td>15:00 ～ 21:00</td> <td>情報共有</td> <td>中間報告会&忘年会</td> <td>中間活動報告&懇親</td> </tr> <tr> <td>'05.01.28</td> <td>葦手第二ビル</td> <td>18:30 ～ 20:30</td> <td>勉強会</td> <td>講演会 東京南部法律事務所 堀 浩介 弁護士</td> <td>技術者が知っていかなくてはならない法律 「法律と倫理-内部告発について」</td> </tr> <tr> <td>'05.02.19</td> <td>日本科学未来館</td> <td>13:00 ～ 15:00</td> <td>見学会</td> <td>ファミリー見学会</td> <td>科学技術を楽しく学ぼう!</td> </tr> <tr> <td>'05.03.19</td> <td>葦手第二ビル</td> <td>10:30 ～ 16:00</td> <td>勉強会</td> <td>第一次試験合格者歓迎会</td> <td>修習技術者の間に得ようとするもの</td> </tr> <tr> <td>'05.04.15</td> <td>航空宇宙研究開発機構 (JAXA)</td> <td>13:00 ～ 17:00</td> <td>異業種交流</td> <td>見学会 & エンジニア意見交換会</td> <td>日本の最先端航空宇宙開発を覗いてみよう! 技術士VS航空宇宙研究者で論議してみよう!</td> </tr> <tr> <td>'05.06</td> <td>中止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>'05.06.18</td> <td>葦手第二ビル</td> <td>14:00 ～ 17:00</td> <td>情報共有</td> <td>総会</td> <td>年次活動報告会・総会</td> </tr> </tbody> </table>						開催日	場所	時間	テーマ	例会名	コンセプト(趣旨)	'04.10.29	葦手第二ビル	18:30 ～ 20:30	勉強会	講演会 日刊工業新聞 編集記者 今堀 崇弘氏	これから必須とされるエンジニアとは? ノウハウを残す上での心得!	'04.11.27-28	リフレフォーラム	13:00 ～ 16:30	研修 (1泊2日)	修習技術者研修セミナー	課題:業務遂行能力 テーマ:業務能力、基幹能力向上	'04.12.18	建設技術研究所	15:00 ～ 21:00	情報共有	中間報告会&忘年会	中間活動報告&懇親	'05.01.28	葦手第二ビル	18:30 ～ 20:30	勉強会	講演会 東京南部法律事務所 堀 浩介 弁護士	技術者が知っていかなくてはならない法律 「法律と倫理-内部告発について」	'05.02.19	日本科学未来館	13:00 ～ 15:00	見学会	ファミリー見学会	科学技術を楽しく学ぼう!	'05.03.19	葦手第二ビル	10:30 ～ 16:00	勉強会	第一次試験合格者歓迎会	修習技術者の間に得ようとするもの	'05.04.15	航空宇宙研究開発機構 (JAXA)	13:00 ～ 17:00	異業種交流	見学会 & エンジニア意見交換会	日本の最先端航空宇宙開発を覗いてみよう! 技術士VS航空宇宙研究者で論議してみよう!	'05.06	中止					'05.06.18	葦手第二ビル	14:00 ～ 17:00	情報共有	総会	年次活動報告会・総会
開催日	場所	時間	テーマ	例会名	コンセプト(趣旨)																																																													
'04.10.29	葦手第二ビル	18:30 ～ 20:30	勉強会	講演会 日刊工業新聞 編集記者 今堀 崇弘氏	これから必須とされるエンジニアとは? ノウハウを残す上での心得!																																																													
'04.11.27-28	リフレフォーラム	13:00 ～ 16:30	研修 (1泊2日)	修習技術者研修セミナー	課題:業務遂行能力 テーマ:業務能力、基幹能力向上																																																													
'04.12.18	建設技術研究所	15:00 ～ 21:00	情報共有	中間報告会&忘年会	中間活動報告&懇親																																																													
'05.01.28	葦手第二ビル	18:30 ～ 20:30	勉強会	講演会 東京南部法律事務所 堀 浩介 弁護士	技術者が知っていかなくてはならない法律 「法律と倫理-内部告発について」																																																													
'05.02.19	日本科学未来館	13:00 ～ 15:00	見学会	ファミリー見学会	科学技術を楽しく学ぼう!																																																													
'05.03.19	葦手第二ビル	10:30 ～ 16:00	勉強会	第一次試験合格者歓迎会	修習技術者の間に得ようとするもの																																																													
'05.04.15	航空宇宙研究開発機構 (JAXA)	13:00 ～ 17:00	異業種交流	見学会 & エンジニア意見交換会	日本の最先端航空宇宙開発を覗いてみよう! 技術士VS航空宇宙研究者で論議してみよう!																																																													
'05.06	中止																																																																	
'05.06.18	葦手第二ビル	14:00 ～ 17:00	情報共有	総会	年次活動報告会・総会																																																													
活動成果	<ol style="list-style-type: none"> 技術士&士補による例会開催 '05.5のシンポジウムは、交渉先の都合により中止となったが、ほぼ毎月例会を開催することができた。 例会開催マニュアルの作成 例会の準備や展開要領、広報・会計・出席担当との役割分担の明確化を行い、例会マニュアル(□1版)を発行した。('05.2) 月刊誌「PE」への例会掲載依頼 																																																																	
今後の予定・展開	<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>場所</th> <th>時間</th> <th>テーマ</th> <th>例会名</th> <th>コンセプト(趣旨)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>'05.07.08</td> <td>葦手ビル C-D</td> <td>18:30 ～ 20:30</td> <td>勉強会</td> <td>講演会 寺西由夫 技術士</td> <td>「バランススコアカード概説」</td> </tr> <tr> <td>'05.08.07</td> <td>ブティフ 03-3915-9408 本郷3丁目駅下車徒歩3分</td> <td>18:30 ～ 20:30</td> <td>親睦</td> <td>技術士&士補 サマーパーティー</td> <td>ビアパーティー「新しい交流チャンネルを探そう」 TV・雑誌に登場する美味しい有名店で人脈作りを!</td> </tr> </tbody> </table> <p>青年技術士懇談会は、青年技術士交流実行委員会へ移行されますが、'05.8までは現計画で実施予定です。</p>						開催日	場所	時間	テーマ	例会名	コンセプト(趣旨)	'05.07.08	葦手ビル C-D	18:30 ～ 20:30	勉強会	講演会 寺西由夫 技術士	「バランススコアカード概説」	'05.08.07	ブティフ 03-3915-9408 本郷3丁目駅下車徒歩3分	18:30 ～ 20:30	親睦	技術士&士補 サマーパーティー	ビアパーティー「新しい交流チャンネルを探そう」 TV・雑誌に登場する美味しい有名店で人脈作りを!																																										
開催日	場所	時間	テーマ	例会名	コンセプト(趣旨)																																																													
'05.07.08	葦手ビル C-D	18:30 ～ 20:30	勉強会	講演会 寺西由夫 技術士	「バランススコアカード概説」																																																													
'05.08.07	ブティフ 03-3915-9408 本郷3丁目駅下車徒歩3分	18:30 ～ 20:30	親睦	技術士&士補 サマーパーティー	ビアパーティー「新しい交流チャンネルを探そう」 TV・雑誌に登場する美味しい有名店で人脈作りを!																																																													
その他(振り返り)	世間に対するインパクト、技術士の知名度向上を考えると、毎月開催の例会を廃止して年1回の青年技術士によるシンポジウム開催に集中することも考えていくべきではないか。																																																																	

サブグループ名	出席管理
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○原田、佐藤(大)
グループの目的・活動の趣旨	1. 月例会、シンポジウムの出席管理 2. CPD エビデンスのフォローアップ
今期の活動内容	1. 各月例会の出席管理 各月に行われる例会出席者の出欠受付および当日の受付を行った。出席者の個人情報（名前・所属・メールアドレス等）に関しては、出席管理グループおよび青年技術士懇談会メンバー以外のへの流出がないよう管理を行った。 2. CPD エビデンスのフォローアップ 例会で使用された各資料についてのエビデンス管理を行った。 3. その他例会支援 その他、例会実施にかかわる各種業務補助を行った。
活動成果	1. 出席管理データの蓄積 例会開催に関する出席データの蓄積ができた。
今後の予定・展開	1. 出席管理データの蓄積 今後も引き続き出席管理を行い、データの蓄積を行う。 2. 個人情報の適切な管理 出欠確認時に収集する個人情報の取り扱いに注意するとともに情報流出が起きないよう厳重に管理を行う。
その他	出席管理は毎回の例会に出席し、出欠を取る必要があるため、少人数では難しい。来年度以降は各員の協力が必要であると思われる。 また、出欠確認時に収集する個人情報はその情報保護の観点から、出欠に必要な最低限の情報にとどめる必要があると思われる。

サブグループ名	組織・規約検討グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○野村 貢、小松 秀次、佐藤 嘉憲、久保 康弘
グループの目的・活動の趣旨	政策委員会の技術士会委員会組織の見直しの中で、青年技術士の活動の場としての青年技術士懇談会の組織、規約を見直し、より実効的な活動が行えるようにする。
今期の活動内容	<p>(1)2004年6月～2005年5月：組織検討の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 政策委員会組織検討小委員会との意見交換 ・ 政策委員会組織検討小委員会において、実行委員会移行後の活動目的、実施内容等について調整 ・ 5月度理事会にて、青年技術士懇談会を政策委員会下の実行委員会として改組・改名することが承認された ・ 理事会承認を経て、政策委員会にて活動予定を報告 <p>(2)2004年6月： <u>ビジョン検討委員会への参加（野村委員長）</u> → 事務局の要請があり、若手技術者を代表し当会から委員を出した。21世紀ビジョンに基づく活動計画（位置付け）を取りまとめ報告書を作成し2005年5月理事会にて承認された。</p>
活動成果	<p>青年技術士懇談会としては、平成15年度からWG活動を通して青年技術士にとって最も望ましい委員会組織、規約を議論してきた。実行委員会への移行はその中でも最も望ましい方向のひとつであり、2年間にわたる議論と技術士会事務局、政策委員会との交流・交渉は一定の成果を上げたと考えられる。</p> <p>また、新委員会においては、支部青年組織の代表も委員として迎えることが承認され、支部交流の一層の推進が期待される。</p>
今後の予定・展開	<p>新委員会は、青年技術士交流実行委員会（Young Engineers Forum）として6月に青技懇を終了するとともに発足する。</p> <p>委員会の活動予定は、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> (5) 政策委員会の企画・立案への若手技術士の参画、意見反映機会の創出 (6) 若手技術士の自主的活動の支援 (7) 支部交流の促進 (8) 若手技術士の国際交流の促進、支援 <p>これらの活動具体化は、6月の新政策委員会と新青年技術士交流実行会が協議して進めていくことになる。</p> <p>なお、委員には各支部青年技術士代表を参集願うこととしている。</p>
その他	特になし。

青年技術士懇談会活動に参加して

阿部真丈
技術士補（金属部門）

平成11年技術士第一次試験に合格後、まずは多くの技術士に会ってみたいという単純な理由から、金属部会や各種委員会に積極的に参加しました。これらの委員会では専門的な技術情報を収集できるのはもちろんですが、若年層として技術士の皆さんから大いに歓迎していただきネットワークも広げることができました。専門部会の参加にも慣れてきた頃、部会で知り合った技術士の方から、青年技術士懇談会（青技懇）のことを紹介されました。「青技懇は若い年代だけで構成される会で、技術士補もたくさん参加しているから良い刺激になるのではないか。」という言葉に、そういえば確かに技術士を目指す同年代の仲間は少なく、同じ立場の仲間とさらに深く交流してみたいと思い、青技懇活動の中身はあまり理解しないまま参加を決めました。

そんな私だったからかもしれませんが、初めて参加した青技懇の活動報告では想像以上に積極的かつ組織的な内容に驚いてしまいました。シンポジウムの開催をはじめ、定例会の企画、実行、さらには国内のみならず海外との技術士交流も積極的に行っており、それらすべてが一人一人の役割分担のもとまさに手作りの状態で実施されていきます。しかも、活動のほとんどは土日などの余暇時間を利用したボランティアですから、皆さんのバイタリティーに最初は感心しきりでした。しかしながら、その活発な雰囲気と事あるたびに開催される飲み会を通じて、徐々に私も活性化される面があることを感じ、確かに良い刺激になっていると思います。

現在、私は参加してから8ヶ月になりますが、広報と支部交流ワーキンググループに属しており、日ごろは主にメール管理や案内等の仕事をしています。その仕事は担当として、個人的な時間を見つけていつでもできる仕事ですが、このような一人一人の小さな仕事の集合からひとつの企画を異分野の皆さんと意見交換しながら実行していく過程には日常の会社の仕事とは少し違った面白さがあると思います。例会が迫ってくると大量の電子メールでの意見交換もあり、時には打合せとして飲み会もあり、それらすべてが同年代の技術士（補）ですから何かと参考になりますし、修習技術者が習得しなければならない能力も知らず知らずのうちに身につけてくることも大いにあると思っています。

まだ私も参加してから間もなく、委員補佐として補助的業務しか携わっていませんが、技術士の皆さんからのご指導や気さくな技術士補どうしのご協力のもと、ようやく全体像がわかってきたように思います。青年技術士懇談会での皆さんに感謝するとともに、今後とも楽しく微力ながらご協力していければと思っています。よろしくお祈りします。

技術士を目指して（青技懇活動という別な扉）

高田 準三
修習技術者（衛生工学部門）

～受験動機と合格後～

いつか受験しようと思いつけた技術士試験。仕事をして気がつけば32才。社会人10年目を前に、自分にどれだけ力がついたのか客観的にはかる材料として受験を決め、勉強を開始。

自分でも驚いたのは知識欲が旺盛で、半年間の勉強が楽しいと思えたこと。大学の時にこの気持ちがあればなあと思いつつ受験し、その年に無事合格。

技術士会から合格祝賀会の案内が届き、参加をしてみようと登録。技術士会のHPを見ながら、色々な部門が活動をやっているのだなあ、と漠然と感じた。合格祝賀会に参加すると、試験後でモチベーションの高い合格者の人達と交流する事ができ、初めての貴重な経験となった。

その後、これから目指そうとする技術士とは、いったいどんな人達だろうか？ただ試験勉強してただけでは面白くないので会ってみたいという衝動に駆られ、例会に参加してみた。

まず始めに実感したのが見知らぬ人とのコミュニケーション力の無さ、自分からPRしないと入っていけないのだということ。ここは自分の弱いところだと知った。

～青年技術士懇談会の活動に参加～

合格祝賀会で知った青技懇の例会に参加。同じ年代や若い士補の方が企画運営していることに驚き、ここで青技懇の委員補佐というものを知る。参加している人達の意識の高さと自分の考えを堂々と言う姿勢に驚き、「何かをやってみたいのであれば参加は自由です。」という委員からのお誘いもあり、この輪に自分も加わりたかった。

参加当初は技術士の方にも会えるし、何かを得られるかなという受け身の気持ちが大きかったが、だんだん何かをやってみたいという気持ちになり、とりあえずやれそうなことは受けるようにした。ただ例会に参加しているだけでは意味がなく、能動的に自ら動くことによってのみ自分自身の成長があるのではないかと考えが変わってきた。ちょっと別な扉を開けてみようかなと。

～活動を通して得たもの～

士補や修習技術者向けの3月例会で企画側に参加し、仕事が忙しい仲間達と1つの例会をやり遂げる難しさと面白さを体験できた。前の年は参加者だった自分が、今回は委員補佐として実行者になっているのだから面白い。

今年の参加者に対して何を提供できるのか、真剣にみんなで考え、意見調整をしながら会を作り上げていったのは、委員補佐の皆が「良い例会にしたい」との思いがあったからだと思う。勿論反省点もあったが、頑張った結果として参加者の方から概ね好評を頂けたことを、素直に喜んでいる。その後、きちんと反省会を行い、次回につながる纏めもできたと思う。

青年技術士懇談会に参加して良かったことは、以下のようなことである。

- ・ 何事も経験、特に例会を企画、運営するという経験ができたこと
- ・ 考え方のしっかりした、意識の高い仲間と知り合うことができたこと
- ・ 会社では得られない、自分自身を試す場所をみつけたこと
- ・ 物事を見る視野が広くなり、少しは自信をもって主張できるようになったこと
- ・ これから目指そうとする技術士の方と知り合うことができ、直接話をしながら考え方を知り、その行動を見ることができたこと

今後について

当然の事ながら、当初の目的は技術士になることであつたので、先輩技術士に一日でも早く近づけるよう、まずは試験に合格しようと思う。そして、技術士会の活動を通して技術的にも人間的にも魅力のある人になれるように自分を磨いていきたい。

それから、もっともっと若い仲間を増やすことによって開かれた技術者のネットワークが、青技懇を核として出来るよう、そういう場を作り上げることに協力していきたいと思っている。

最近考えていること

佐藤大樹
技術士補（環境部門）

その1 エンジニアに必要な力とは？！

青技懇では、これまでたくさんの方をやらせてもらいました。正直大学での認知度が低い技術士（大げさではなくほんとうに知らないのです）でしたが、そんな状況でも、「それなり」の活動をしてみたいと思っており、そして青技懇にチャンスをもらいました。

例えば、それなりの人数の前で自分について話すこと。青技懇の方々に話しかけて、何かを話そうとしてみて初めて、皆さんがいかにかプレゼンがうまいのかを知りました（基本的に飲み屋ですが）。自分の考えや、自分の仕事等、自分が何を話そうと考えているうちに、逆にうまい話運びで聞かされてしまう。分野が違う方多くの方のことを教えられた気がします。そしてうまく私のことを聞き出されてしまう。話の振りや聞き方もうまい。この意味でみなさんは、街角で絵画を売りつけるためにお店に引き込もうとしているキレイなお姉さん達と同じ香りを漂わせています。私としては、100 戦練磨のおじさんたちを相手にいつも負け戦をしている気分です。これがまた、攻め入り方の品が良いから手が付けられません。街角のお姉さん達は、一方的に私が歩いているところに割り込んでくる点で非常に品が無く、こっちも何とか強引にかわすことができますが、串特急或いは藩に集まるおじさんたちはその点、かわすことができません。いつも、まずは1勝という気持ちで臨んでおります。

その2 修習期間のモチベーションを維持させているのは？！

技術士になるために大切なことは、知識、経験、技術、試験対策などなど、たくさんありますが、モチベーションの維持が、最も難しいのではと思っています。インターネットでその辺の検索をかけてみると、①計画書を作る、②ライバルを見つけてグループ学習をする、③技術士を目指すことを周囲の人に宣言する、④トイレや机の前に目標を掲げた張り紙をするなど、たくさんできてきますが、実はどれもピンときませんでした。そもそも自分が1次試験を受けたきっかけは、大学に入ったときに、周りの人が自分よりも年下が多く、何かしらの焦りを感じたからそれに対して自分を少しでも大きく見せようとして、他人に持っているものを、と思ったためです。ですから、合格してもその後に対する姿勢が定まらず、検索結果にピンとくるはずもありません。技術士補として経験を積みたい自分と、研究を結構面白がって取り組んでいる自分とが、相反する立場にいて、折り合いがつかず宙ぶらりんな気分でした。

そんなときに、たまたま研究における1つの考察と技術士補としての考え方が結びつく経験をしました。相反する立場だと考えていて、この先どちらかを選ばなくてはならないと考えていたために、自分でもビックリしました。技術士補になったということは、強力な新しい思考回路が一本増えたのであって、相反する立場を抱えるようになったわけではないということに気づいたのです。結局、周りに技術士補に対する理解をしてくれる人がいないとか、そういう環境でないとかというのは、結構どうでもよい話で、技術士を目指すうえで技術士補としてやるべきことをやろうと思えば、身近などんなこととでも結びつくのだという結論に至りました。

そして現在社会人になったのですが、これからの青技懇への参加の姿勢として、会社に所属している自分と青技懇に所属している自分とは、相反する立場でどちらかを犠牲にしたり、どちらかのみを選ばなくてはならないというよりも、こうした側面同士がうまく混ざり合えるようにしていきたいと考えています。

青年技術士懇談会 委員・委員補佐紹介

<委員>

氏名： 野村 貢

技術部門： 総合技術監理部門、建設部門

役割： 委員長

勤務先等： 株式会社 建設技術研究所 東京本社

専門技術： トンネル、道路計画

趣味・特技： トンネル掘り

メッセージ： いろいろ渡り歩いた結果、建設コンサルタントでトンネルをやっています。人はなぜ地下に住みたがるのか？というのが目下のテーマです。鉱山や炭鉱の好きな人が好き。



青年技術士懇談会に関わりを持つようになってはや5年。まさか自分がこの伝統ある委員会の幕引きをすることになるとは思いませんでした。実行委員会への移行はまさに歴代委員の願っていたところであり、今後の活動が楽しみです。

青年技術士懇談会の委員であることにより、技術士会21世紀ビジョンやアクションプランの策定にも関わることができました。青年技術士懇談会は私の技術士経験の大きな部分を占めていると感じています。

<委員>

氏名： 小松 秀次

技術部門： 建設部門

役割： 副委員長、支部交流 WG

勤務先等： 株式会社 石勝エクステリア
住宅造園事業部



専門技術： 環境緑化（樹木の診断・治療、パークマネジメント、屋上緑化）

趣味・特技： 釣り、庭いじり、メダカの飼育、ノラ猫観察（少しですが猫と会話できます）

メッセージ：

青技懇の委員になって2年が経ちましたが、感覚としては5年位やっている気がします。当会に参加される方々の共通点とは？ と考えるとまず、「志の高さ」と「濃いキャラクター」が思い浮かびます。この「濃さ」が2年という期間を5年に感じさせるのでしょうか？ともあれ、普段の仕事では決して得られない貴重な体験が出来たと感謝しております。

樹木の医者もやっています。ヤブ医●ですが、困ったことがありましたら相談して下さい。

<委員>

氏名： 佐藤 嘉憲



技術部門： 応用理学部門
役割： 副委員長、修習技術者支援 WG
勤務先等： 佐藤嘉憲総合事務所
専門技術：

- ① 熱分析 (TG、DTA、DSC、TMA、比熱測定、熱伝導率測定など)
- ② レオロジー (動的粘弾性試験、クリープ試験、応力緩和試験など)
- ③ 強度試験 (引張試験、圧縮試験、曲げ試験、弾性率測定、ポアソン比率測定など)
- ④ その他、高分子ならびに高分子製品の試験、評価

趣味・特技： 社交ダンス。ベースを弾く。カメラ。料理。笑いものにされる。その他多趣味。
メッセージ：

個人事務所を運営しています。技術コンサルティングだけではなく、心理カウンセリングやデザイン (グラフィックもホームページも) もできます。お仕事ください。いっぱいね。お待ちしております。

<委員>

氏名： 松浦 勝博

技術部門： 情報工学部門、電気電子部門、総合技術監理部門
役割： 例会企画グループ
出版企画グループ
勤務先等： 日本電技株式会社
技術本部 開発室 担当課長



専門技術： 計測・制御に関するシステム開発、ソフトウェア開発
趣味・特技： 読書 (推理小説、歴史小説など)、スポーツ (テニス、ボーリング、卓球)、プラモ制作
メッセージ：

3年間青年技術士懇談会の委員を務めさせていただきましたが、今回退任するところになりました。短い間でしたが、関係者のみなさまには大変お世話になりました。この3年間は技術士となってから最も貴重な体験ができた期間ではないかと思えます。特に平成15年、16年の2回の特別公開シンポジウムでは、委員・委員補佐・協力員他みなさんの行動力と連帯感に深く感銘しました。何か若い頃の熱い心を思い出したような気がします。これからも何らかの形で御協力をさせていただきたいと思えます。今後は実行委員会として新しい組織に生まれ変わり、益々の発展があることを祈念いたします。

<委員>

氏名： 井上 讓

技術部門： 建設部門

役割： 広報WGグループリーダー

勤務先等： 若築建設株式会社 東京支店 東京工事事務所

専門技術： 外郭施設の設計，海洋景観，港湾計画

趣味・特技： ゴルフ，子供と遊ぶこと，おいしいもの食べ歩き

メッセージ： 委員としての活動を始めて1年が経過しました。しかもグループリーダーという重責を任せ、いろいろ勉強になりました。広報活動では、特にHPやEメールの威力（効果）が大きいことに改めて驚かされました。青技懇の範囲に限らず、あらゆる舞台上で技術士全体がもっとメジャーになり、国内外と問わずもっと知ってもらえるように様々な活動を行いながら自分も磨いていきたいと思ひます。



<委員>

氏名： 中村 弘

技術部門： 水産部門

役割： 例会支援

勤務先等： オルガノダニスコフードテクノ株式会社

専門技術： 食品素材・添加物の利用開発、加工食品の企画開発、
メニュー開発等

趣味・特技： 食べ歩き、カラオケ、競馬 特技は、飲み歩き

メッセージ： 食品業界に携わっています。食品の技術の中で重要なのは、美味しさでありますが、これは建設や機械分野と違い数値化が難しい世界です。この世界に日夜、立ち向かっている毎日であり、感性を磨くための、食べ歩き、飲み歩きは、週に5日を数えます。また、食べる事は幸せなこと、人脈は財産、人との会話はレベル向上の源泉という思いがあるので、色々な人と食べ飲み話す機会を持ちたいと思ひています。そんな私ですが、今後ともよろしくお願ひします。

<委員>

氏名： 青木 ゆかり

技術部門： 情報工学部門，総合技術監理部門

役割： 修習技術者支援グループ

勤務先等： 株式会社 日本総合研究所

専門技術： 金融関連情報システム

趣味・特技： 料理の本を読むこと。絵本として楽しんでいます。

メッセージ：

いろいろな人に助けていただいて技術士になりました。その恩を後輩の皆さんに返していきたいと思ひています。

<委員>

氏名： 清田 隆

技術部門： 建設部門

役割： 国際交流WG

勤務先等： 東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻博士課程

専門技術： 土質・地盤工学

趣味・特技： スキー・旅行・読書

メッセージ：

青技懇の活動をはじめて1年が経過しました。青技懇について全く予備知識が無い状態からスタートしたため、当初は何をしたら良いのかさっぱり判りませんでした。しかし、CAFEO参加という明確な目的を持った国際交流WGを担当させていただいたことで、徐々に委員として何をすべきか理解していくことができました。この1年、私のたくさんの不備を補っていただいた国際交流WGの委員補佐の方々に感謝いたします。

私は現在、大学で地盤工学に関する研究を進めています。現在の主なテーマは地震時における液状化現象に関するものです。液状化に関する研究を実施している産学の研究機関は非常に多くありますが、私の研究室の持ち味である、非常に「精度」の良い実験機を用いて、液状化時における10⁻³%レベルの微小な地盤変形を測定、解析し、より合理的な液状化耐震設計手法を構築することを目的としています。

今後の目標として、私はイチローと同じ年なので、彼にあやかって博士号をとるまでに実験を「262回」行うこと、日常生活については、「毎晩ちゃんと家で寝ること」を挙げたいと思います。会社を辞して一介の学生になってしまいましたが、良い仕事をするためには生活リズムの定常化は重要であると、いまさらながら気がつきました。

技術士会の活動については、今年度より国際特別委員会の委員に指名していただき、青年技術士交流実行委員会と平行して活動していくことになりました。私には海外関係のお仕事が多くなることが多いなと感じていますが、私自身外国人との交流は“pleasure”と感じているので、今後もお手伝いできることがあれば声をかけていただきたいと思います。しかしその反面、常に同じ人間だけが国際交流を担当していいのだろうかとも感じております。たしかに外国人との交流は、人によってはストレスを感じることもあるかと思えます。しかし、海外技術者協会との交流は、技術士会全体としても急務であり、少なくとも技術士会の委員であるならば、「興味のある人間だけが担当すればよい」という次元では既になくはないと思います。時に国際交流というものは、今年春のマレーシアとの交流活動に代表されるように、担当者にはある程度の自発性・積極性が要求されます。今年度の国際交流活動に関しては、これまでのように一部の委員補佐の方々に重荷を負担させることの無いよう、委員の方々の協力を期待します。

最後に、私の恥ずかしい話を書きます。私も会社員だったころは英語に触れることは全く無く、3年半前にシャレで受けたTOEICで260点を取ってしまいました。この点数はTOEICを受けたことのある人ならば、相当ヤバイ点数であると思われるでしょう。鉛筆を転がしても300点は取れるだろうといわれていたので当時は軽く凹みました。また、外国人から電話が来たとき、居留守を使ったことも何回もあります。そんな私でも、今ではなんとなく聞き取ることもできますし、意思疎通もできるようになりました。また、昨年は海外の学会で発表し、優秀論文賞を受賞することもできました。

今年の秋には日韓技術士会で若手交流会があるそうです。別に英語ができなくても交流を楽しむことはできると思いますが、意思疎通できることに越したことはありません。英語は全く駄目と言われる方は、これを機に少しずつトレーニングを始めてはいかがでしょうか？私もがんばって精進していきたいと思えます。

<委員>

氏名： 木下 英也 (きのした ひでや)
技術部門： 経営工学部門 (所属学会： 経営工学会)
役割： 例会支援 WG リーダー
勤務先： 日産自動車 (株) 技術情報マネジメント部
専門技術： Project Management (R&D Process)、
MOT (Management Of Team)、
KAIZEN

趣味： 体力強化、読書 (1回/月、3時間程度、大書店内徘徊)、ドライブ、映画

メッセージ：

勤務する会社が倒産の危機に瀕し、自職場の工場が消えた時、技術士の資格を取得しました。そして、若い?技術士の集まりである青年技術士懇談会に入会しました。いろいろな考えを持っている方々とのコミュニケーションは、大変充実感があります。最後の1年となりますが、宜しくお願い致します。

<委員>

氏名： 黒崎 靖介
技術部門： 環境部門、建設部門、総合技術監理部門
役割： 会計
勤務先等： 日本工営株式会社
専門技術： 環境影響評価、環境保全計画
趣味・特技： 水泳、ダイビング、乱読
メッセージ：

青技懇に参加してからの1年間を顧みると、通帳からお金を出したり入れたり、領収書を書いたり受け取ったりの他に、いったい何をしていたんだろう、と。

でも、必ずしも形の見えるものだけが有意義なわけではないはず と考え直し、あと一年がんばります。

<委員>

氏名： 前田 秀一 (まえだ しゅういち)
技術部門： 化学部門、総合技術監理部門
役割： 出版企画 WG リーダー
勤務先等： 王子製紙株式会社 新技術研究所

専門技術： 情報用紙、電子ペーパー、高分子コポリマー、導電性高分子

趣味・特技： 電子書籍端末による乱読、弓道、空手

メッセージ：

一年間青年技術士懇談会の委員を務めさせていただきました。例会 (4月見学会)、本活動年鑑の作成など単発的ではありますが、青技懇を通して勉強させてもらっています。名刺交換では人脈はできない、一緒に仕事をしてはじめて人脈ができると、よく言われます。実行委員会として新たな組織として生まれ変わる本年度も参加させていただきます。一緒に活動することで皆様との交流を深めていきたいと存じます。



<委員補佐>

氏名： 佐藤 大樹
技術部門：環境部門（技術士補）
役割：出席管理
勤務先等：大成建設株式会社
専門技術：
趣味・特技：インラインスケート 逆立ち
メッセージ：



この自己紹介のフォーマットを見てふと、今の自分には専門技術って無いな、と思いました。
これまで、勉強中だの大学で研究してますだのといって逃げていましたが、これからは専門技術と呼べる技を身に付けたいと考えています。

<委員補佐>

氏名： 齊藤 稔
技術部門：機械部門（技術士補）
役割：国際交流、修習
勤務先等：株式会社 藤精機製作所
専門技術：材料力学・機械力学・精密研磨・機械加工
趣味・特技：スノーボード・ものづくり一般・ガンプラ製作
(決してオタクではありません)
メッセージ：



昨年度は青技懇活動を通して、多くの貴重な経験が出来ました。
今年度も人との出会いを大切にしていきたいと思います。

<委員補佐>

氏名： 新井 靖典
技術部門：建設部門
役割：
勤務先等：西武建設株式会社 土木事業本部 技術部 環境技術研究室
専門技術：廃棄物最終処分場
趣味・特技：ビリヤード 焼酎
メッセージ：昨年は仕事の都合上、宮崎県に勤務していました。そのため、3月例会まで青技懇活動にまったく参加できませんでした。現在は関東勤務のため、例会等への積極的参加を心がけています。最近、有志で青技懇ビリヤード同好会（現在会員3名）を結成したので興味のある方はご一報を。今後ともよろしくお願ひします。

<委員補佐>

氏名： 柳澤 剛

技術部門：農業部門（技術士補）、応用理学部門（技術士補）

役割：修習技術者支援グループ

勤務先等：清瀬市郷土博物館

専門技術：

趣味・特技：旅行が好きで、旅行先では社寺仏閣や博物館を見てまわっています。

メッセージ：青技懇の中ではいつも影は薄いですが、微力ながら会に貢献したいと思っております。また、文化事業にご興味のある方、是非お話を伺わせてください。

<委員補佐>

氏名： 阿部 真丈

技術部門：金属部門（技術士補）

役割：広報、支部交流

勤務先等：那須電機鉄工株式会社 研究開発部

専門技術：機能性材料、水素エネルギー、熱力学

趣味・特技：スポーツクラブ、釣り・超整理法、習字

メッセージ：エンジニアという共通点だけで、所属や環境の全く異なる皆さんが集まって、ひとつの企画を立案、実行していく本会は予想以上に有意義な会だと思いました。これからも楽しく勉強させて頂きたいと思っております。

<委員補佐>

氏名： 鎌田 憲司

技術部門：化学部門、環境部門（修習技術者）

役割：修習技術者支援グループ

勤務先等：東京工業大学 大学院社会理工学研究科 経営工学専攻 修士課程

専門技術：廃棄物処理工程における爆発災害防止のための安全管理に関する研究

趣味・特技：鉄道

メッセージ：「末は博士か技術士か？ それともタダのヲッサンか？」

これは、「末は博士か大臣か」を改変したフレーズです。対外的に、私の将来についてこのように説明することにより、自然と「技術士」というプロの職業の存在について認知していただいております。

今期は、委員補佐としての活動をほとんど全うできず、申し訳ありませんでしたが、次期より具体的な活動にかかわっていきたく存じますので、よろしく願いいたします。



<委員補佐>

氏名： 高田 準三

技術部門：衛生工学部門（修習技術者）

役割：修習技術者支援グループ、支部交流グループ

勤務先等：荏原製作所 環境プラント事業部（出向先）

専門技術：廃棄物処理装置（プラント）

趣味・特技：ダイビング、水泳、音楽鑑賞、読書、デパブラ

メッセージ：

委員補佐として参加させていただき、もうじき1年になります。初めは何をするのかよく分からなかったのですが、修習技術者&士補向け例会の企画・運営に加わって、職場で得るものとは違った楽しさと、まとめることの難しさを知りました。要所で委員（技術士）の方から鋭い指摘をいただき、また講演依頼者の方から運営時の注意点を教えていただくなど、本当に参加して良かったと思っています。

最近「何事も要領良く、効率的に」、をモットーとしているのですが、やっていることは意外と地道に王道かもしれません。結局、本人が納得しないと意味がないので、時間がかかっています。仕事でも効率を重視してある資料を流用して“こなす”ことが良くありますが、自分の知らない新たな領域に入った時に、基準がない、考え方はどうなっているのだろうか？と、はたと考え込むときがあります。（実は今なのですが・・・）基準さえ決まればやることはたいした内容ではないことも、その基準をどういう考え方で決めるのか、ということが意外と分かってないことが多いものです。当たり前の話ですが、時間がかかっても、きちんとした考え方を身につけることの重要性を実感しています。（もちろん、社内外の先輩方に聞きまくるのは当然です。）

最近に行く回数が減ってしまったのですが、ダイビングは27才から初めて8年になります。特に沖縄地方の海が大好きで、夏はもちろん冬も潜りに行きます。海の蒼さは夏が飛び抜けて綺麗ですが、特に気に入っているのは西表島の海です。今まで潜った中で半分以上が西表島です。海も島も魅力的な場所で、個人的には第2の故郷のように思っています。時間を気にする生活から解き放たれて、思考をスローにする時間も大切にしています。onとoffのバランスは祖父の口癖です。

これからも人生楽しく！頑張っていきたいと思っています。

<委員補佐>

氏名： 山田 英樹

技術部門：建設部門（技術士補）、上下水道部門（修習技術者）

役割：国際交流グループ、修習技術者支援グループ

勤務先等：三浦市役所

専門技術：下水道計画

趣味・特技：海外旅行、スキー、ぎゃんぶる・弓道



メッセージ：前回このメッセージ欄を書いてからもう1年過ぎてしまいました。昨年から今日までになが あっただろうと思うと、昨年度からやっと2次試験を受験できるようになったこと。国際交流グループで国際交流活動としてミャンマーに行ったこと。青年技術士懇談会関係では、この2つが大きい出来事でした。またこの1年間に委員補佐で結婚された方が3人もいて、時間が過ぎていくことも改めて実感しました。そんな委員補佐のメンバーも以前から同世代が多く、年を重ねているという意識もあまりなかったのですが、最近、だんだん新米技術者ではなくなってきたのだなと感じるようになりました。これからは私たちに続く若い積極的に活動する人が気軽に青年技術士懇談会の活動に入ってこられるように、敷居の低い活動をしていけたらいいと思います。個人的には2次試験も受かるようにがんばらないと・・・。

<委員補佐>

氏名： 田村 裕美
技術部門：建設部門（技術士補）
役割：国際交流グループ
勤務先等：三井金属資源開発（株）
専門技術：最終処分場、環境保全計画
趣味・特技：家庭菜園、撞球、ライブ
メッセージ：自分にできることを見つけて、面白い活動をしていきたいと思います。

<委員補佐>

氏名： 高木 圭子
技術部門：環境部門（技術士補）
役割：広報、支部交流
勤務先等：(株)環境指標生物 環境部 情報技術課
専門技術：植物調査、GIS
趣味・特技：稲作、犬のさんぽ、フルーツ
メッセージ：委員補佐1年目の昨年は広報WGを中心に、いろいろと勉強させて頂きました。青技懇の皆さんの行動力、意欲、活気に刺激されることしきりの1年でした。新人、若手ともてはやされたり叱咤されたりするほどの歳でもなくなり、それほど無理をしなくてもまあまあの仕事はできるようになって来た時期に、青技懇の活動に参加する機会を得たのは大変ラッキーなことでした。今年も活動を楽しみながら、技術者のネットワークを広げていけたらと思います。

<委員補佐>

氏名： 原田 篤史
技術部門：生物工学部門（技術士補）
役割：出席管理
勤務先等：カジマアクアテック株式会社
専門技術：有機性排水処理・有機性廃棄物処理等
趣味・特技：サイクリング、映画鑑賞（特にスターウォーズ）
メッセージ：



今年、結婚して仕事もプライベートも例年以上の忙しさでした。
こんな中、青技懇活動では皆様にご迷惑かけましたが、暖かく迎え入れてくれて、協力し合うことのできる仲間を持つことができたのは大変価値あることでした。
技術者としても社会人としてもまだまだ発展途上ですが、青技懇活動を通して、これら高められたらと思います。

<委員補佐>

氏名： 益子 理

技術部門： 環境部門

役割：

勤務先等： 国土環境株式会社

専門技術： 生物調査、解析

趣味・特技： バードウォッチング、ビリヤード、サッカー、釣り

メッセージ： 青技懇では、主に出席管理と修習WGのお手伝いをさせていただきました。与えられた役割を通じて自己のレベルアップにもつながりました。青技懇とそのスタッフのみなさんにはとても感謝しています。今後は、これまで以上に内部で活発に議論し、技術士会を活性化させられるような青技懇になったら良いなと思います。



青技懇活動年鑑製作スタッフ

<青年技術士懇談会 出版企画ワーキンググループ>

委員：前田、戸谷、松浦、掛川、橋本